

明石空襲など継承へ初の常設展示「平和資料室」オープン

写真や証言 戦禍伝え

文化博物館内 “爪痕” 記す市域図も

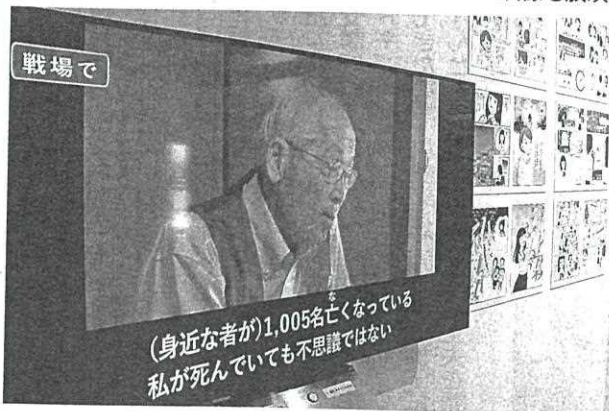
太平洋戦争中の6度にわたる空襲を中心に、明石の戦禍を写真や体験者の証言でたどる「平和資料室」が19日、明石市立文化博物館（同市上ノ丸2）に開設された。映像資料や空襲を題材にした漫画など約20点を展示。多くの犠牲を生んだ戦争の悲惨さ、平和のかけがえのなさを伝える。

（川崎恵利子）



①市内の空襲跡などを説明するマップ=いずれも明石市上ノ丸2、明石市立文化博物館

②戦争体験者が空襲などを語るインタビュー映像も放映



戦争の記憶や記録を後世に継承しようと、市が同博物館2階の国際交流室（約28平方メートル）を改装した。明石の戦災をテーマにした常設展示は市内で初めて。明石市は1945年、6回にわたる米軍の空襲で約1,500人が犠牲に。約8割の家屋が全壊した。

縦2段、幅5段の市域図上には、今に残る戦争の爪痕や慰霊碑など計29カ所を記載。戦時中の生活や空襲を受けた街の様子を写真やイラストで紹介する。

元特攻兵や空襲体験者ら4人へのインタビューも映像で公開。明石空襲を題材に市が2015年に制作した漫画「七夕の願い」を、明石高校の生徒が実写化した映像作品も視聴できる。

市人権推進課は「小中学生でも分かりやすい内容にした。明石で起こった史実を知ってもらい、次世代に伝えていく場になりたい」としている。

平和資料室は当初、昨年7月の開設予定だったが、新型コロナウイルスの影響で戦争体験者の収録などに時間を要し、約半年遅れとなった。市は3密を避けるため、今回は見合わせた展示ケースを将来的には室内に設置し、戦時中の衣服や焼夷弾など展示内容の拡充を図っていく方針。

平和資料室の見学のみは無料。月曜休館。同博物館 ☎078・918・5400

◆ 平和資料室の開設に合わせ、市役所本庁舎2階ロビーで24日まで「平和パネル展」を開催中。